夢　塾　だ　よ　り

～　ショパン国際ピアノ・コンクール　～

（第 52 号）　令和 3 年 11 月 26 日

ショパン国際ピアノ・コンクールは 1927 年の第１回以来、5 年ごとに開催され第 18 回目の今年は反田恭平さんが見事２位。これまでに日本人の上位入賞は、第８回２位の内田光子さん以来５１年ぶりです。

このコンクールで演奏される曲はすべてショパンの作品でなければならず、予選では勝ち残るための曲順やストーリー性などの綿密な戦略も試される類まれなコンクールです。

私は１次予選からファイナルまでの模様をテレビで見たのですが、1 次予選から息をのみました。2 次予選では、華やかなワルツでペースをつかみ、みずみずしく豊かな音で聴衆を魅了しました。このステージでは、ポーランド人でも知らないショパンの遺作「ラルゴ 神よ、ポーランドをお守りください」を選曲。そうしてファイナルではピアノ協奏曲１番か２番を選びますが、反田さんは１番を弾きました。

「最もチケットの取れないピアニスト」と言われた反田さん。ショパンコンクールへの出場は「傷がつく」と周囲から反対されましたが、歴代の入賞者のデータ分析、さらにショパンの書いた手紙や研究書を読み漁り、４年前からはポーランド人からショパンを学びたいと、ワルシャワへ留学しショパンの音楽に向き合いました。

受賞後のコメントが素晴らしかったです。『15 年間想い続けてきたショパンコンクールの舞台でファイナルまで演奏できたこと、夢が叶った瞬間でした。 僕の場合は、一瞬ではなく 40 分の間、その感覚を味わうことができました。 心から感謝しております。 そしてこれからもこの結果に驕ることなく、謙虚に学び続けたいと思っています』

緊張が極度に達する「ファイナル」で、夢が叶った 40 分間、幸せを感じながら演奏したなんて・・・すごすぎるコメントではありません？

私たちも極度の緊張時は「夢が叶った瞬間」とコメントしたいものですね。